

2019年8月8日

上場会社名 永大産業株式会社
 コード番号 7822 URL <https://www.eidai.com>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長
 四半期報告書提出予定日 2019年8月9日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

(氏名) 枝園 統博
 (氏名) 森下 昌樹

TEL 06-6684-3020

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第1四半期の連結業績(2019年4月1日~2019年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第1四半期	13,078	△16.7	△590	—	△552	—	△581	—
2019年3月期第1四半期	15,703	△1.2	219	△43.0	312	△36.0	224	△35.0

(注) 包括利益 2020年3月期第1四半期 △758百万円 (—%) 2019年3月期第1四半期 △144百万円 (△132.9%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第1四半期	△12.84	—
2019年3月期第1四半期	4.95	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期第1四半期	64,571	43,366	67.1	955.89
2019年3月期	68,032	44,440	65.3	981.13

(参考) 自己資本 2020年3月期第1四半期 43,297百万円 2019年3月期 44,440百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	8.50	—	8.50	17.00
2020年3月期	—				
2020年3月期(予想)		8.50	—	8.50	17.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日~2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	62,500	7.3	200	—	100	—	50	—	1.10

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

当社は年次での業務管理を行っておりますので、第2四半期(累計)の連結業績予想の記載を省略しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3)四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期1Q	46,783,800 株	2019年3月期	46,783,800 株
② 期末自己株式数	2020年3月期1Q	1,488,416 株	2019年3月期	1,488,416 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期1Q	45,295,384 株	2019年3月期1Q	45,295,386 株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等)	8
(重要な後発事象)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善を背景に緩やかな回復基調で推移しましたが、米中貿易摩擦問題の長期化や中東における地政学的リスクの高まりが懸念されるなど、依然として先行き不透明な状況が続いております。

住宅業界におきましては、低水準で推移する住宅ローン金利や各種住宅取得支援策が下支えし、持家は増加傾向を維持したものの、貸家は減少が続いており、新設住宅着工戸数は前年同期を下回る状況となりました。

このような状況のなか、当社グループでは、昨年台風被災によりお客様に多大なご迷惑をお掛けしたことを踏まえ、生産拠点の複数化や物流及び情報システムの改革を進めるなど、全社的な事業継続マネジメントの再構築を最優先課題として取り組みました。さらに、業績の早期回復に向けて、新ブランド「Skism(スキスム)」の拡販をはじめ、住宅分野でのシェアアップに取り組みました。また、木質ボード事業の拡大を図るため、2019年5月に日本ノボパン工業株式会社とパーティクルボードの製造を目的とする合弁会社(ENボード株式会社)を設立しました。当該合弁会社は、当社グループがこれまで得意としてきた化粧用や木工用パーティクルボードに加え、需要の拡大が見込まれる構造用、フローリング基材用パーティクルボードを品揃えすることにより、売上拡大と収益向上を図ります。

一方、これらの取組と並行して中期経営計画の見直しを進め、厳しさを増す事業環境においても、当社グループの経営基盤を強化し、更なる成長と企業価値の向上を図るべく、2020年3月期を初年度とする経営五ヵ年計画を新たに策定しました。

当第1四半期連結累計期間の経営成績は、企業間の販売競争が一層激化するなか、販売面において台風被災により受注ストックが減少した影響が残ったため、売上高13,078百万円(前年同四半期比16.7%減)、営業損失590百万円(前年同四半期は営業利益219百万円)、経常損失552百万円(前年同四半期は経常利益312百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失581百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益224百万円)となりました。

なお、台風による被災の影響からは徐々に回復しております。直前四半期(2019年1月1日～3月31日)との比較を下表に記載しておりますので、ご参照ください。

(ご参考)

(単位：百万円)

	2019年3月期 第4四半期連結会計期間 (2019年1月1日～3月31日)	2020年3月期 第1四半期連結会計期間 (2019年4月1日～6月30日)	増減
売上高	12,518	13,078	559
営業利益	△1,016	△590	426
経常利益	△951	△552	399
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△1,975	△581	1,393

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

(住宅資材事業)

住宅資材事業におきましては、フローリング、室内階段、室内ドア、収納等の色柄、デザインを体系化し、それらを組み合わせたインテリアスタイルが特長である新ブランド「Skism(スキスム)」の拡販に製販一体となって取り組みました。

建材分野では、引き続き、銘樹ブランドのより一層の強化を図るとともに、室内階段の正寸プレカットの提案強化に注力しました。

内装システム分野では、主力製品である室内ドア、造作材、クロゼット、シューズボックスの拡販に努めるとともに、事業継続マネジメントの一環として、連結子会社である永大小名浜株式会社において生産品目を拡充するなど、生産拠点の複数化を推進しました。

住設分野では、ワークトップの厚みを20mmに抑えたシャープなデザインが特長のシステムキッチン「ラフィーナネオ」を発売し、販売促進に注力しました。

しかしながら、各分野とも販売面において台風被災により受注ストックが減少した影響が残ったため、当第1四半期連結累計期間の売上高は11,622百万円(前年同四半期比17.8%減)、セグメント損失は205百万円(前年同四半期はセグメント利益598百万円)となりました。

(木質ボード事業)

木質ボード事業におきましては、置床及び木工用などの素材パーティクルボードが販売面で苦戦を強いられました。化粧パーティクルボードにつきましても、新規開拓に努めましたが、販売は伸び悩みました。一方、接着剤や木質チップなど原材料のコスト低減や固定費の圧縮を図りました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は1,414百万円（前年同四半期比7.5%減）、セグメント利益は52百万円（同34.3%増）となりました。

(その他事業)

当社グループは、上記事業のほか、不動産有効活用事業、太陽光発電事業を推進しております。

当第1四半期連結累計期間の売上高は41百万円（前年同四半期比1.2%増）、セグメント利益は22百万円（同6.7%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ3,461百万円減少し、64,571百万円となりました。主な要因は、現金及び預金、売上債権、有価証券がそれぞれ減少したことによるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べ2,388百万円減少し、21,204百万円となりました。主な要因は、未払金が減少したことによるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べ1,073百万円減少し、43,366百万円となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上及び配当金の支払いによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年3月期通期連結業績予想につきましては、2019年5月14日に公表しました計画から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	10,691	9,461
受取手形及び売掛金	13,891	13,472
電子記録債権	5,146	4,756
有価証券	1,000	—
製品	5,862	5,492
仕掛品	2,720	2,734
原材料及び貯蔵品	5,489	5,465
未収入金	1,543	1,350
未収還付法人税等	262	264
その他	199	252
貸倒引当金	△5	△13
流動資産合計	46,801	43,237
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	4,849	4,778
機械装置及び運搬具（純額）	2,811	2,731
土地	4,037	4,037
建設仮勘定	53	409
その他（純額）	285	392
有形固定資産合計	12,037	12,349
無形固定資産	602	639
投資その他の資産		
投資有価証券	7,530	7,276
出資金	7	7
長期前払費用	332	337
繰延税金資産	142	142
その他	636	639
貸倒引当金	△58	△58
投資その他の資産合計	8,590	8,343
固定資産合計	21,231	21,332
繰延資産	—	1
資産合計	68,032	64,571

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	4,684	4,649
電子記録債務	146	136
未払金	13,979	11,507
未払費用	727	668
未払法人税等	56	27
未払消費税等	32	125
賞与引当金	518	739
災害損失引当金	176	100
その他	117	170
流動負債合計	20,440	18,124
固定負債		
繰延税金負債	513	420
退職給付に係る負債	2,282	2,311
環境対策引当金	62	61
負ののれん	193	185
長期預り保証金	91	91
その他	8	8
固定負債合計	3,151	3,079
負債合計	23,592	21,204
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,285	3,285
資本剰余金	1,370	1,370
利益剰余金	38,180	37,213
自己株式	△441	△441
株主資本合計	42,394	41,427
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,910	1,725
為替換算調整勘定	313	314
退職給付に係る調整累計額	△178	△169
その他の包括利益累計額合計	2,046	1,870
非支配株主持分	—	69
純資産合計	44,440	43,366
負債純資産合計	68,032	64,571

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
売上高	15,703	13,078
売上原価	11,759	10,131
売上総利益	3,944	2,946
販売費及び一般管理費	3,724	3,537
営業利益又は営業損失(△)	219	△590
営業外収益		
受取利息	5	4
受取配当金	44	42
仕入割引	5	3
為替差益	31	8
負ののれん償却額	7	7
持分法による投資利益	25	8
雑収入	24	21
営業外収益合計	144	97
営業外費用		
売上割引	31	24
雑損失	19	34
営業外費用合計	51	59
経常利益又は経常損失(△)	312	△552
特別利益		
固定資産売却益	0	—
特別利益合計	0	—
特別損失		
減損損失	—	9
固定資産売却損	0	—
固定資産除却損	4	1
特別損失合計	4	11
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	308	△564
法人税等	84	17
四半期純利益又は四半期純損失(△)	224	△582
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	—	△0
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	224	△581

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	224	△582
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△258	△184
為替換算調整勘定	△118	0
退職給付に係る調整額	7	8
その他の包括利益合計	△368	△176
四半期包括利益	△144	△758
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△144	△758
非支配株主に係る四半期包括利益	—	△0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

該当事項はありません。

なお、特定子会社の異動には該当していませんが、当第1四半期連結会計期間において、E Nボード株式会社を新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	住宅資材	木質ボード	計				
売上高							
外部顧客への売上高	14,133	1,529	15,662	41	15,703	—	15,703
セグメント間の内部売上高又は振替高	0	325	325	—	325	△325	—
計	14,133	1,854	15,988	41	16,029	△325	15,703
セグメント利益	598	39	638	21	659	△439	219

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産有効活用事業及び太陽光発電事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年6月30日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	住宅資材	木質ボード	計				
売上高							
外部顧客への売上高	11,622	1,414	13,036	41	13,078	—	13,078
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	236	236	—	236	△236	—
計	11,622	1,650	13,273	41	13,314	△236	13,078
セグメント利益又は損失(△)	△205	52	△153	22	△130	△459	△590

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産有効活用事業及び太陽光発電事業を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(重要な後発事象)

(重要な設備投資)

当社は、2019年8月3日開催の臨時取締役会において、連結子会社であるE Nボード株式会社の工場建設候補地の選定及び生産設備にかかる売買契約締結について決議いたしました。

(1) 設備投資の目的

最新の連続プレスを導入した新工場を建設し、生産品目の拡充や生産増強などの取り組みをより効率的に行い、木質ボード事業の拡大を図るためであります。

(2) 工場建設候補地の内容

- ①所在地 静岡県
②用地面積 約92,000㎡

(3) 設備投資の内容

- ①所在地 静岡県
②用途 パーティクルボード生産設備
③投資予定金額 4,500百万円

(4) 設備の稼働時期

2020年9月(予定)

(5) 当該設備が営業・生産活動に及ぼす重要な影響

2020年3月期連結業績に与える影響は軽微であります。

(多額な資金の借入)

当社は、2019年8月3日開催の臨時取締役会において、連結子会社であるE Nボード株式会社の資金の借入について決議いたしました。

- (1) 資金の用途 E Nボード株式会社の設備投資資金
(2) 借入先 株式会社りそな銀行、株式会社三菱UFJ銀行、株式会社紀陽銀行、株式会社商工組合中央金庫
(3) 借入金額の上限 17,000百万円
(4) 借入方法 分割借入
(5) 当初借入日 2019年8月7日
(6) 当初借入金額 161百万円
(7) 借入金利 変動金利
(8) 返済期日 2021年10月末(長期資金借入への借り換えを実施する予定)
(9) 担保の有無 無担保

(連結子会社に対する債務保証)

当社は、2019年8月3日開催の臨時取締役会において、連結子会社であるENボード株式会社の銀行借入に対し、11,000百万円の債務保証を行うことを決議いたしました。